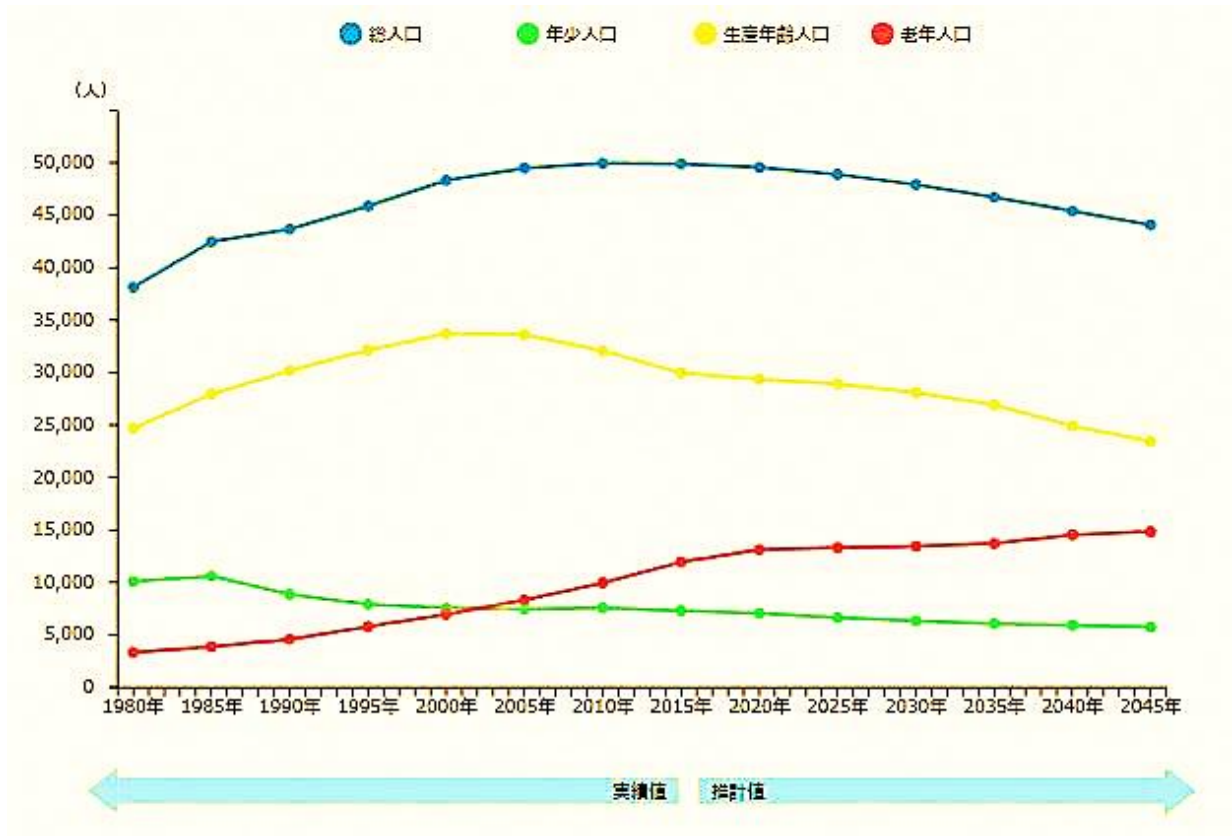


1 人口の動向

第2次野洲市総合計画の将来構想における本市のシミュレーションによると、2060年には44,556人、高齢化率31.6%となる見込みです。

将来的に人口減少、少子高齢化が進行すると、消費の縮小、税収の減少といった課題が発生する懸念があります。

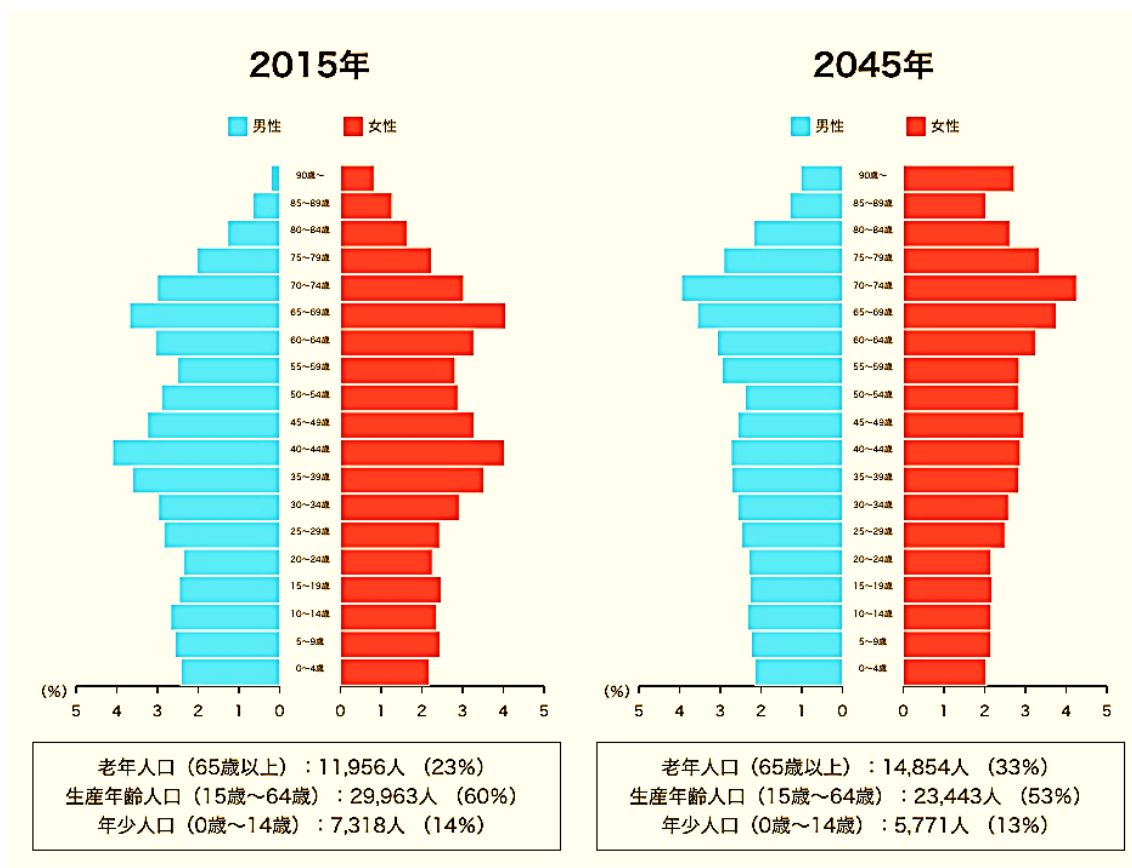
これらのことから、「野洲で子育てしたい」と思えるまちづくり、及び出産を促進するために求められる施策展開を積極的に図ることにより、合計特殊出生率1.80以上を実現すること、ならびに本市の雇用拡大施策と本市および近隣都市の従業者を対象とした定住施策を積極的に図ることにより、社会増減の減少傾向への転換を防ぐことを目指す必要があります。



①人口ピラミッド

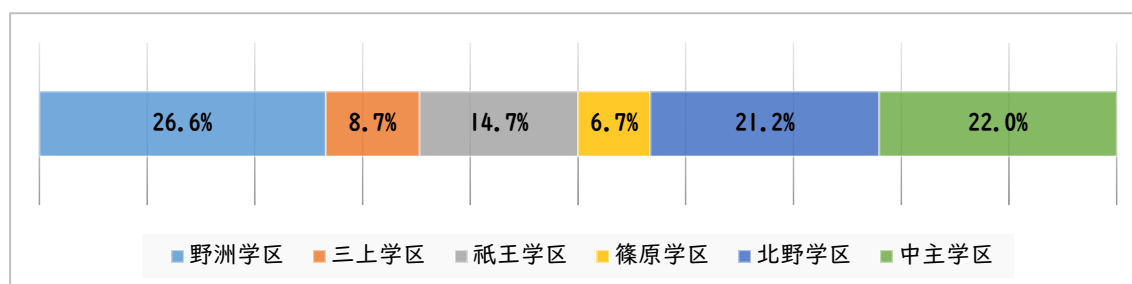
人口を5歳階級別にみると、平成27（2015）年では、男女とも第一次ベビーブームを含む世代（60～64歳・65～79歳）、第二次ベビーブームを含む世代（35～39歳・40～44歳）が大きく膨らんでいます。

令和27（2045）年の推計を見ると、全体的に極端な窪みはみられなくなりますが、第二次ベビーブーム世代の膨らみが残るとともに、90歳以上の女性の割合が高くなることが予想されます。



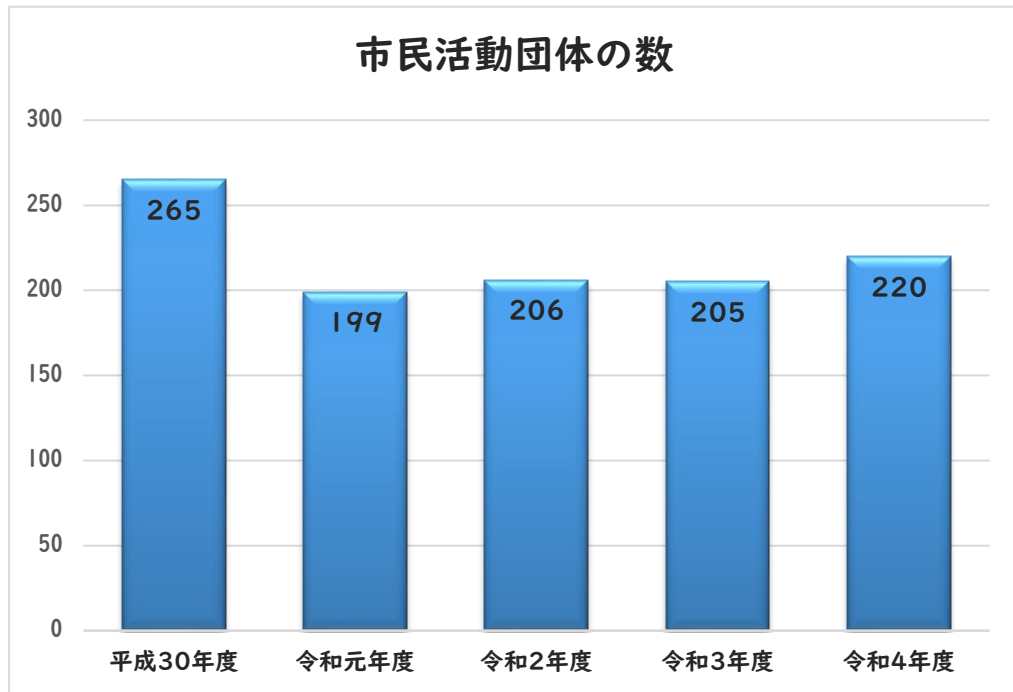
②地域別人口

学区別に人口を見ると、野洲学区が一番人口が多く、約27%を占めています。次に中主学区、北野学区が多く、約22%ずつを占めています。一番少ない篠原学区が総人口に占める割合は約7%となっています。



2 市民活動団体数

市内を中心に活動をしている市民活動団体の登録数は、平成30年度をピークに減少しているが、令和4年度には前年比7%増加しています。

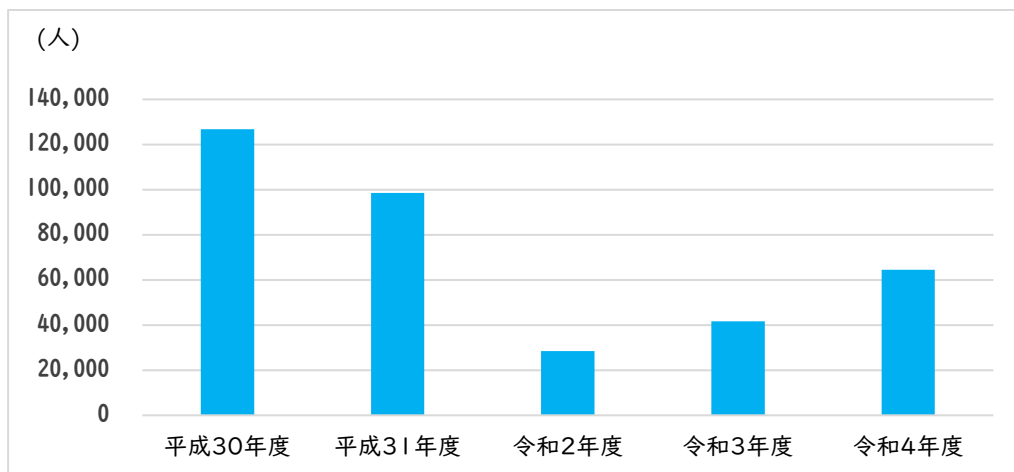


3 社会教育施設等の状況

① 野洲市文化ホールの利用状況

野洲市文化ホールの年間利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響による休館等により、2020年に大幅に減少しました。2021年以降は徐々に増加傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症前の利用人数と比較すると、約半数程度の状況です。

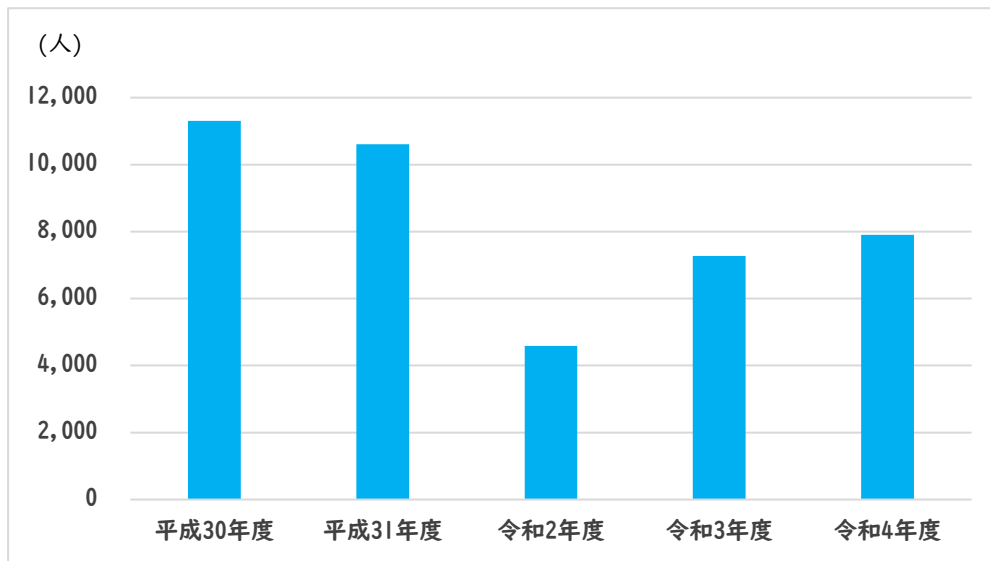
野洲市文化ホール利用者数



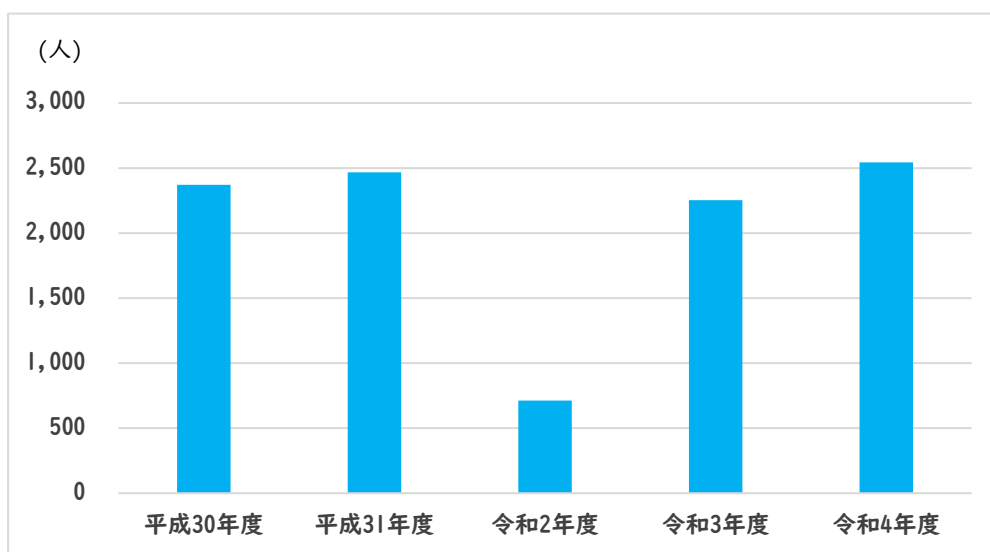
② 歴史民俗博物館の利用状況

歴史民俗博物館の年間利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響による休館等により、2020年に大幅に減少しました。2021年以降は徐々に増加傾向にあります。また、弥生の森体験工房では、2020年の利用人数は減少したものの、2021年からは新型コロナウイルス感染症前の人数に戻っています。

歴史民俗博物館利用者数

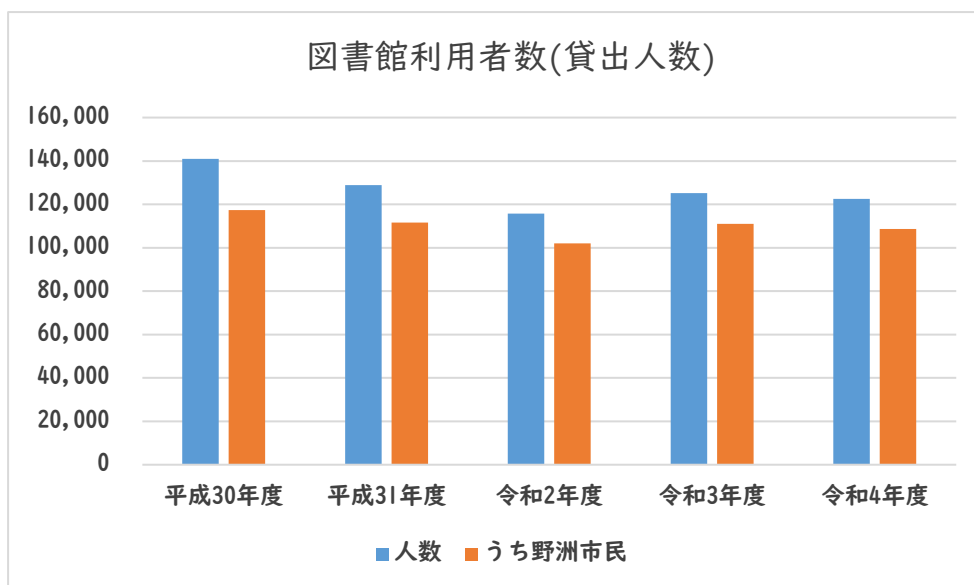


弥生の森体験工房利用者数



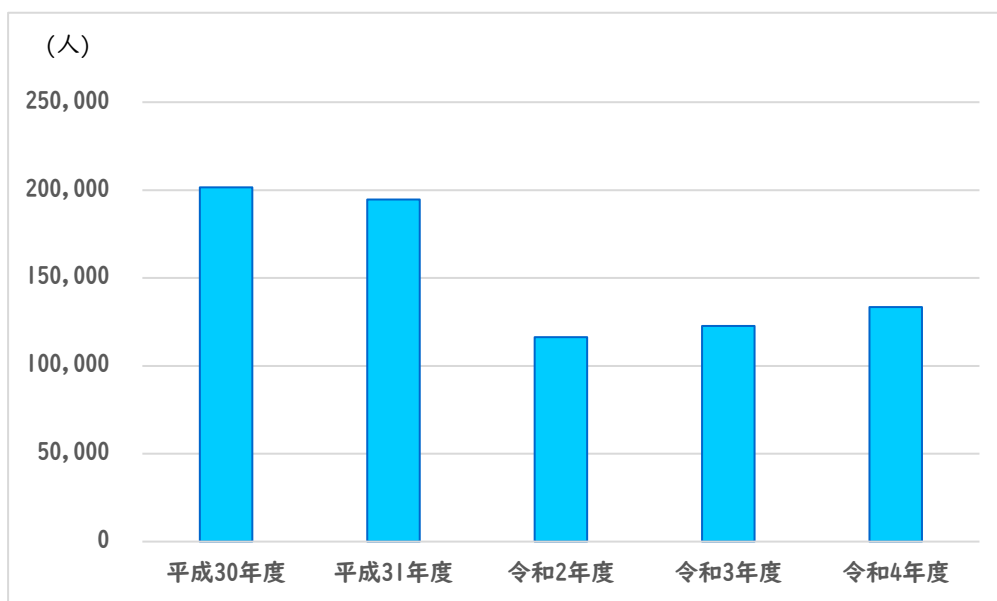
③ 図書館貸出人数

本市の図書館利用者数(貸出人数)は108,614人(R4年)で、人口1人あたり2.15人で、1人あたり年間2.15回図書館で本を借りている計算になります。全国の図書館利用者数と比較しても高い率になっています。



④ スポーツ施設利用者

スポーツ施設の年間利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響による休館等により、2020年に大幅に減少しました。2021年以降は徐々に増加傾向にあります。



※野洲市総合体育館、中主 B&G 海洋センター体育館、中主 B&G 海洋センタープール、中主 B&G 海洋センター艇庫、市民グラウンド、なかよし交流館